

雪裏

若禪

いぬの

九編

上冊

仙史録

豊國虫

紅英堂藏

五商子



道徳の火道の術を用愚民をわびむ系無任法師雜談集の巻小記云く食法師が自灯の
話を種々の作し曰常州小吉入道の侍鎌倉で相見ても食法師奥州に遊感せん
と下向の時便宜ふよりと云ふかろ上はあや誰感志して云ふと云ふは兼例の上
さぬふり下ける今度下り冬三度身灯してか小一度はまそ死ひ
まひかかかかく七助侍り云け薪おやくつこ本より死體をふきこて火中
後行穴へたまはり同法共念佛一經を誦せれば万人あつたり銭米を施するを取て
得今とありに唐土ある自焚ハ彼野ありて大々六實僧の所業誰もあつ五雜事
傳をも引熟を忘る法を云載るじて珍しき事あるに彼雜談の物語のまう物語
似てあれ蛇足あると鈔出らん又道節滑路小對ハ頼朝公のまかこれ木道の術と
の義經の鳥渡も火道の術のよるあると語ハ一時の戲筆を本拠ある莫らあつ
若水園信を人あつたり痛くひらぬ相手女の最期の際長物語はよるに
摘短くは是等の話皆省つちるをありと智なふ此九編の本集の廿七回の半より
廿九回の半に至りさう画を除て廿八丁半小縮め例のとて画上不志いぬ

嘉永三年新春發兌

應一七五をとりぬ 仙史録

煉馬平左門尉

倍盛家老

犬山監物貞與

判髪後稱道策

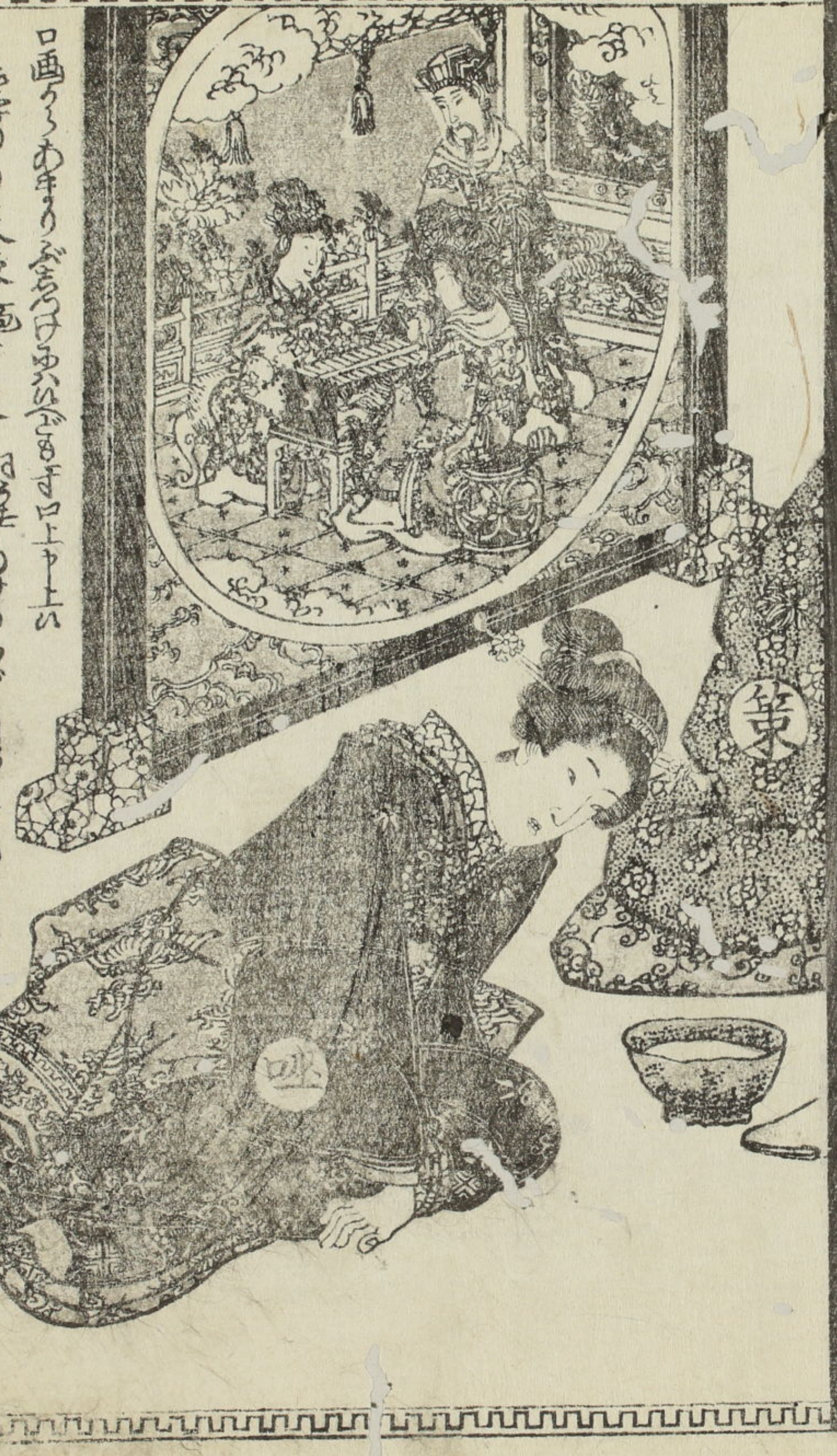
綾女於呷两个

妾小男子を産

たりん者をりて

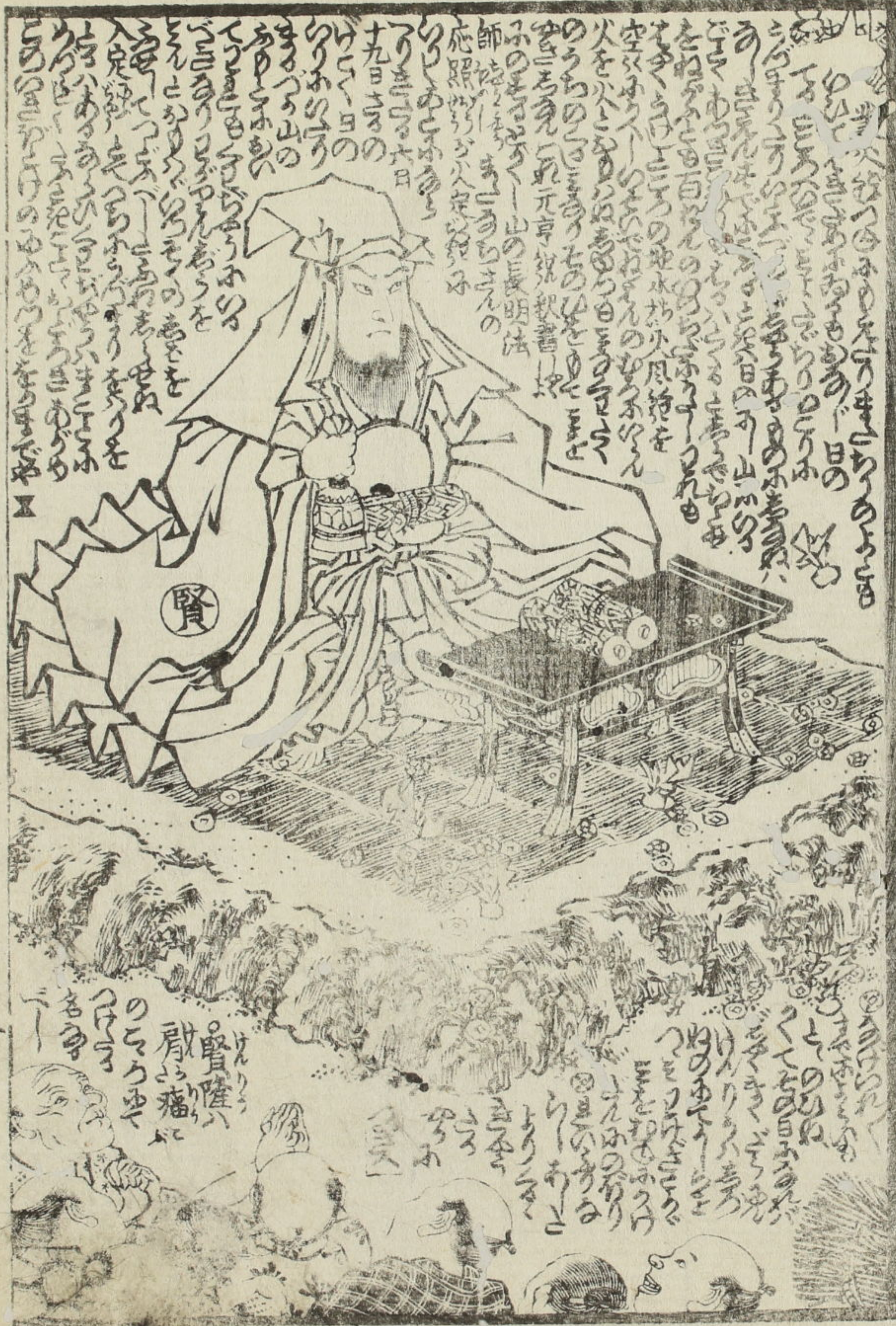
正室ふるまんと

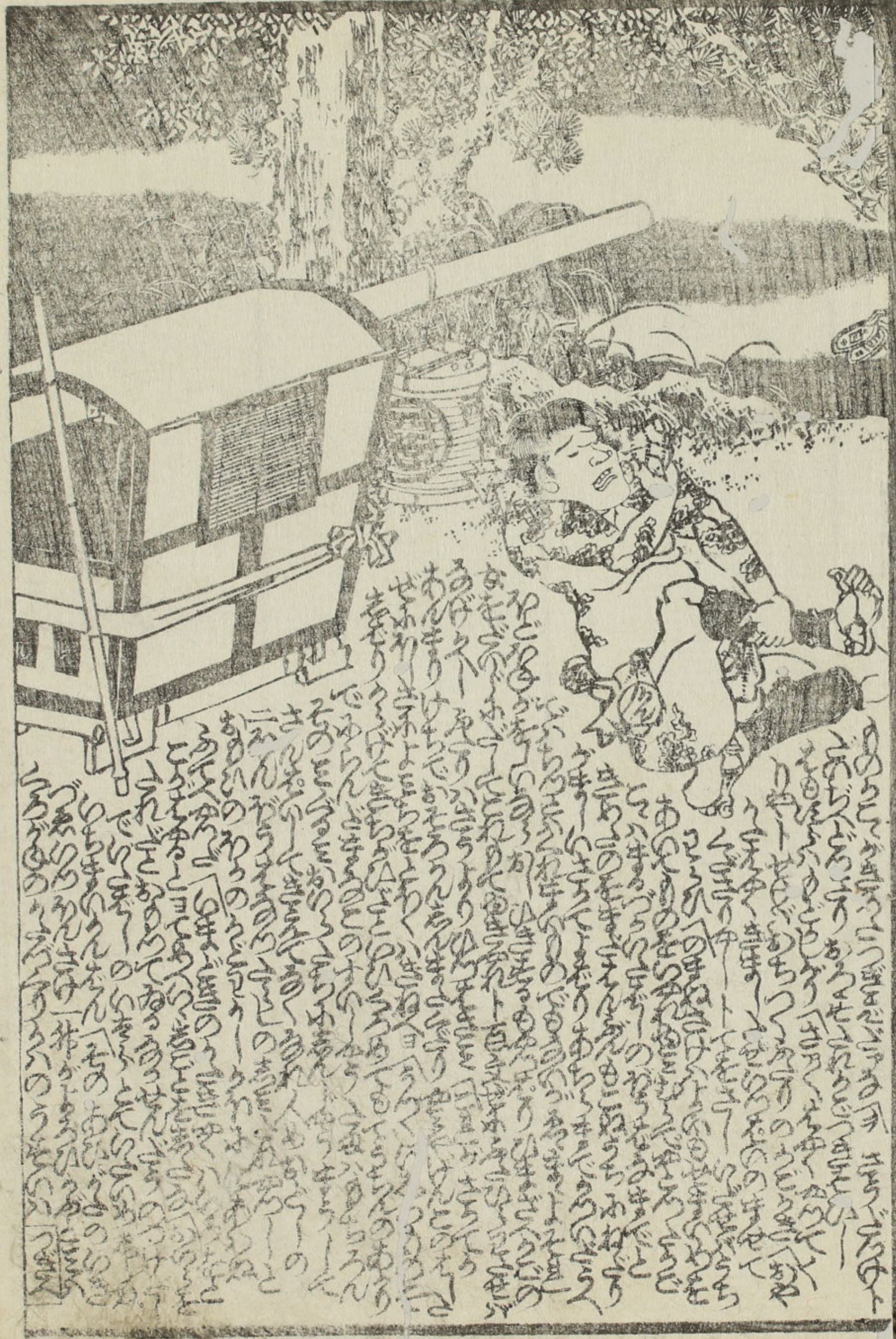
契約



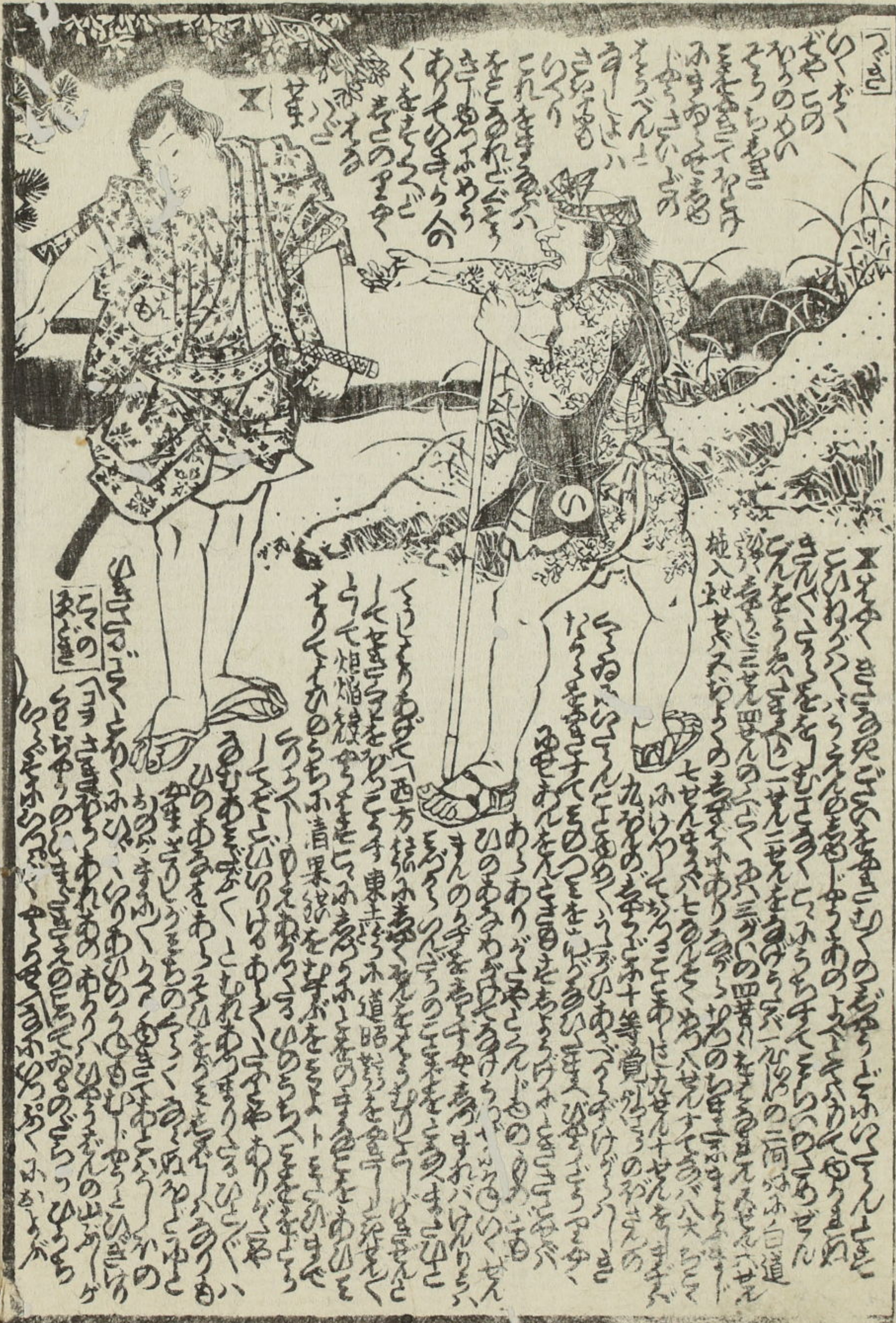
口画くつわりのふさつひめひめこむすこ上ヤ上の
ゆかり白芙蓉 手交 けちまわりのふさつひめ
ゆかりのふさつひめ 廿四文 ありあけのふさつひめ
聖人交

右の店では
先年より美ひあつた
中は山田用と名づけた



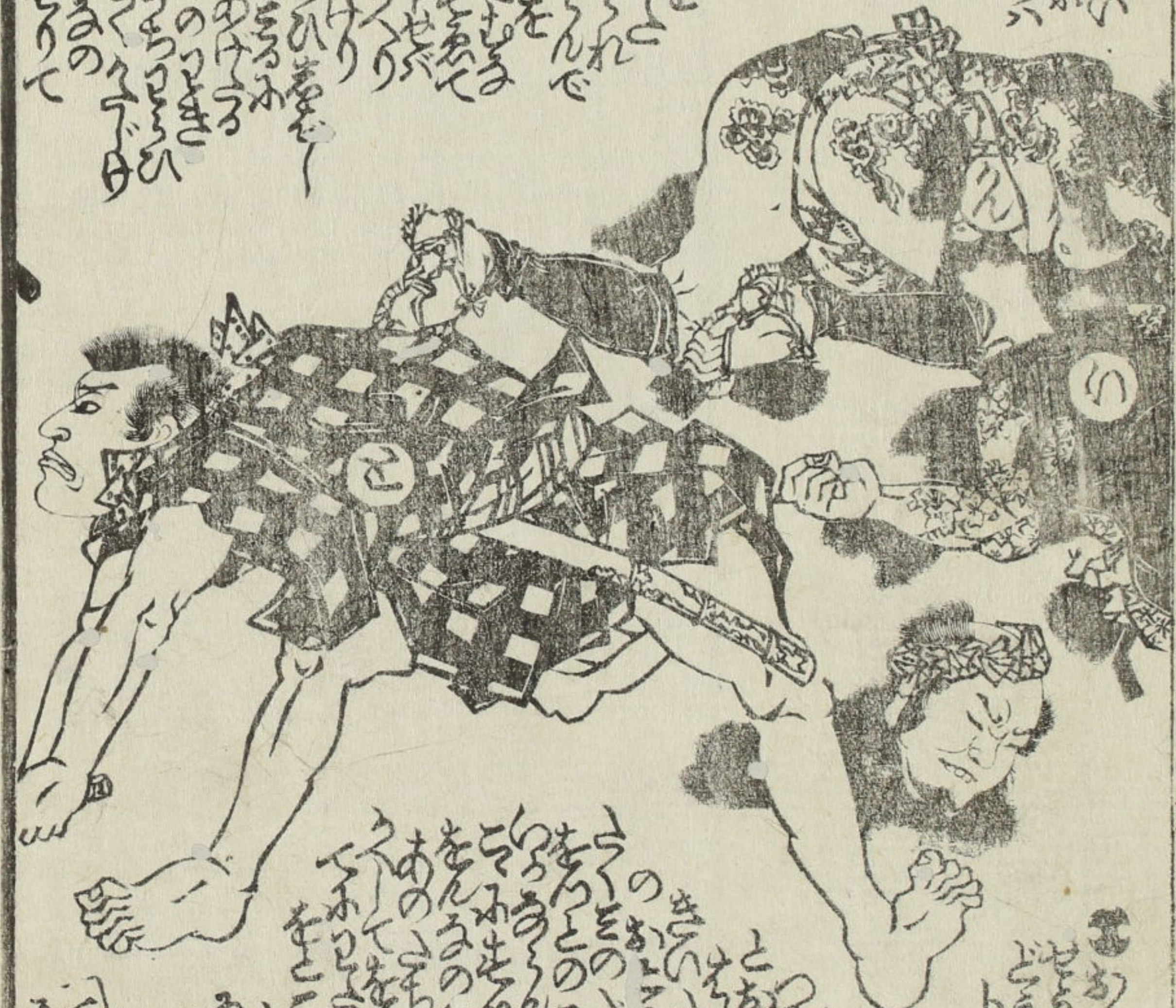


Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a story or dialogue, positioned below the illustration on the left page.



Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a story or dialogue, positioned below the illustration on the right page.

Handwritten text in the top left corner of the right page, written in vertical columns.



Handwritten text in the bottom right corner of the right page, written in vertical columns.

Handwritten text in the top left corner of the left page, written in vertical columns.



Handwritten text in the bottom right corner of the left page, written in vertical columns.



仙果鈔録 豊國畫

てんこくしやくろく
のりて

豊國畫
のりて
てんこくしやくろく
のりて

無事
のりて
てんこくしやくろく
のりて

無事
のりて
てんこくしやくろく
のりて

文平

地本板元
錦繪

中衣 南傳馬町二丁目
紅英堂 葛屋吉藏

白芙蓉
一包二十六文

曙
一包二十六文

